

コロナと ペスト

～七三一細菌戦部隊の今日的意味

2020 年度西東京市公民館市民企画事業
企画 ピースナウ西東京



関東軍防疫給水部本部（通称満州第 731 部隊）1940 年完成 中国ハルビン市平房区

今年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界中で猛威をふるい、現在も、感染拡大防止のために、各国・地域で懸命な努力が続けられています。

症状が広がり始めた当初、感染症の社会的影響・不条理を題材にしたカミュの小説『ペスト』(1947年)が話題になりました。

小説は架空の話ですが、中国に侵略した日本軍の七三一細菌戦部隊は、「感染症」を引き起こす生物兵器の研究を人体実験をしながら進め、実際 1940～42 年にペスト菌を中国十数地域で散布し、多数の「黒死病」患者を生み出しました。

この七三一部隊の存在と現在日本で進行中のコロナ感染症対策の間には、実は深い関連があることを明らかにしたいと思います。

戦後75年の節目の年に、今につながる負の歴史を学び、問題点を考えましょう。

講師 松村高夫さん



慶應義塾大学名誉教授。社会史・労働史専門。家永教科書裁判で七三一部隊記述への教科書検定について法廷で証言。

2020 年 **11.22 (日)**
14 時～16 時
柳沢公民館視聴覚室

(西武新宿線西武柳沢駅南口徒歩 1 分)

定員 28 人 要申込み 資料代 100 円
新型コロナウイルス感染症拡大予防の為に、定員が
3分の1になり、事前申し込み(先着順)となります。

11月2日(月)9時より 電話でお申し込みください。

申込先 柳田 電話 042-461-3246

ピースナウ西東京・西東京市公民館 共催